

◆事業方針（計画等における位置付け）

日野市では、「第二次日野市学校教育基本構想」の基本施策の一つとして「人・もの・こと」とのかかわりのなかで「つながりによる教育」を掲げ、地域からも子供たちの学びを支えることを目標としている。学校の求めや地域の特性に応じて支援を行う。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫を等含む）

全17小学校に地域支援本部を設置し、学校支援ボランティア推進協議会事業を実施している。学校の求めに応じて、コーディネーターが学校とボランティアの調整等を行い、各学校の状況に合わせて、学習支援、環境整備等の支援を行っている

◆運営委員会

構成

教育長を座長として、社会教育委員の会議議長、小中学校PTA協議会委員、小学校担当校長、コーディネーター代表及び行政関係者により構成

主な内容

前年度の報告（実施状況）と来年度の目標（各種支援のための方法）を協議する。

◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

市広報「広報ひの」（全戸配布）の特集記事で取り組みやコーディネーターの紹介、また保護者や学校周辺地域へ配布する「ひのっ子教育」を通して、学校支援活動の内容紹介とボランティアの募集を行っている。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

年3回程度開かれるコーディネーター会議において各学校での活動内容の報告・情報交換を行い、スキルアップを図っている。今年度は研修として、他校の取組の見学会を行い実際どのような支援が行われているのか視察し今後の支援活動の参考にした。他市から転入されてきた新任校長には個別訪問し、事業説明を行っている。



▲コーディネーターのみなさん

◆成果

少しずつ、活動が認識されてきている。支援日数やボランティア参加者延べ人数が増えている。

コーディネーター同士のつながりで、支援が広がっている（読み聞かせ、機材の貸出しなど）

◆課題・展望

ボランティア支援活動やコーディネーターの存在が学校内・外にも認知されるように広報等でPRを図りたい（市民だけではなく市役所職員等にもPR）。学校によってPTAなどの活動が活発でコーディネーターとの役割分担・連携や事業開始から10年が経過し、新しいコーディネーターの開拓や引継ぎも課題となっている。